

サッカーワールドクラスのセンターバック選手における 楔のパスに対する守備戦術の検討

山田翔平 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 北村 哲

キーワード：楔のパス、センターバック、守備戦術

I. 緒言

ディフェンダーに一番に求められるのは得点を許さないことである。近年ゴールを奪うために「楔のパス」が数多く使用されている。特にセンターバック選手はポジション柄、「楔のパス」への対応が求められ、その対応力が重要である (秋田, 2012)。

そこで本研究は、楔のパスに対する守備戦術に着目して、楔のパスが出された時のフォワードとセンターバックの1対1における、センターバックの対応と失点の有無や勝敗に影響するののかについて調査することを目的とした。

II. 研究方法

1. 映像分析

1) 映像分析対象

サッカーワールドカップ2014ブラジル大会決勝トーナメント全16試合

2) 映像分析項目

以下の項目について著者が視認的方法にて判定し記録した。

(1) センターバック選手の「楔のパス」に対する守備戦術 (井原, 2006)

- ① インターセプトを狙う
- ② トラップした瞬間を狙いボールを奪取
- ③ 前を向かせない
- ④ 攻撃を遅らせる

(2) 上記守備戦術遂行の成否

(3) 失点数

2. 集計および分析

以下の分析項目について検討した。

1) 全センターバック選手における「楔のパス」への守備戦術の遂行状況およびその成否と失点との比較

2) 上位4チーム (国別) におけるセンターバック選手の「楔のパス」への守備戦術の遂行状況とその成否と失点との比較

III. 結果および考察

1. 全センターバック選手における「楔のパス」への守備戦術についての比較

集計した結果、全失点のケースにおいて「楔のパス」に対して対応順位が3番目である「前を向かせない」のプレー数が最も多かった。対

応の順番が2番目である「トラップした瞬間をボール奪取」が少なかった。失点3以上の時に「攻撃を遅らせる」の失敗が多かった。(表1)。

表1 全選手における失点別守備戦術遂行状況

失点	守備戦術	数	割合	成否	数	%	守備戦術	数	割合	成否	数	%
失点0	インターセプト	24	21.4%	成功	22	91.7%	インターセプト	11	18.3%	成功	10	90.9%
				失敗	2	8.3%				失敗	1	9.1%
	トラップした瞬間	10	8.9%	成功	10	100.0%	トラップした瞬間	8	13.3%	成功	5	62.5%
				失敗	0	0.0%				失敗	3	37.5%
	ボール奪取	10	8.9%	成功	48	85.7%	ボール奪取	8	13.3%	成功	23	92.0%
				失敗	8	14.3%				失敗	2	8.0%
失点1	前を向かせない	56	50.0%	成功	13	59.1%	前を向かせない	25	41.7%	成功	7	43.8%
				失敗	9	40.9%				失敗	2	8.0%
	攻撃を遅らせる	22	19.6%	成功	15	88.2%	攻撃を遅らせる	16	26.7%	成功	7	43.8%
				失敗	2	11.8%				失敗	9	56.3%
	インターセプト	17	17.5%	成功	17	89.5%	インターセプト	4	16.7%	成功	4	100.0%
				失敗	2	10.5%				失敗	0	0.0%
失点2	トラップした瞬間	19	19.6%	成功	35	85.4%	トラップした瞬間	3	12.5%	成功	3	100.0%
				失敗	6	14.6%				失敗	0	0.0%
	ボール奪取	19	19.6%	成功	12	60.0%	ボール奪取	3	12.5%	成功	9	90.0%
				失敗	8	40.0%				失敗	1	10.0%
	前を向かせない	41	42.3%	成功	7	41.2%	前を向かせない	10	41.7%	成功	1	14.3%
				失敗	8	40.0%				失敗	6	85.7%
失点3以上	攻撃を遅らせる	20	20.6%	成功	10	50.0%	攻撃を遅らせる	7	41.2%	成功	1	14.3%
				失敗	8	40.0%				失敗	6	85.7%

2. 上位4チームにおける守備戦術についての比較

アルゼンチン、オランダの失点0の時の試合では「前を向かせない」のプレー数とその成功数が最も高く、次に「楔のパス」に対して対応順位が1番目である「インターセプト」のプレー数と成功数が高かったが、優勝したドイツは「前を向かせない」の次に多かったのは「攻撃を遅らせる」であった。

センターバックは楔のパスを早い段階で対応し、ボールを奪取することが理想だが、遂行できなかった場合、前を向かせないことが失点の減少に繋がると考えられる。

本研究の結果から、ワールドクラスのセンターバックのプレーでは、楔のパスに対して、「前を向かせない」守備戦術が最多の出現頻度であり重要であることが明らかになった。「攻撃を遅らせる」は前を向かれた時の守備戦術のため失敗したら失点に繋がると考えられる。

IV. まとめ

本研究はトップクラスのセンターバック選手における楔のパスを出された際の守備戦術の対応が失点に影響するののかについて調査した結果、「楔のパス」に対して「前を向かせない」対応が重要であることが明らかになった。

主な文献

- 秋田豊 (2012) センターバック専門講座. シーロック出版: 東京, pp. 68-70.
井原正巳 (2006) 井原正巳のディフェンス論. ベースボールマガジン出版: 東京, pp. 23-33.